

令和5年度 長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより 第166号

令和5年度 長野県図書館協会 小中学校図書館部会の活動を振り返って

長野県図書館協会小中学校図書館部会

副部会長 長野市立徳間小学校 長井 裕之

本年度の長野県図書館協会小中学校図書館部会では、「学びと心のより所となる学校図書館 一学校内・外の連携による読書・学習・情報センター機能の構築を目指して」のテーマを前年度より継続し、活動を行ってまいりました。

当部会が目指す学校図書館運営としては、主なものとして、以下の4点を継続しております。

- 「1. 創造力を培い、豊かな心を育む『読書センター』としての学校図書館」
- 「2. 知的活動を促し、自ら学ぶ力を育てる『学習センター』としての学校図書館」
- 「3. 情報活用能力を伸ばす『情報センター』としての学校図書館」
- 「4. 学校内・外が連携して教育力を高める学校図書館」

これら4点については、新学習指導要領にもある「主体的・対話的で深い学び」「情報活用能力の育成」「社会に開かれた教育課程」等とも関連し、今後ますます学校図書館の果たすべき役割が大きくなっていくと考えられます。教育課程に位置づけられた学校図書館のあり方を、引き続き探っていきたいと考えております。

さて、今年度も今までと同様に、司書教諭、学校司書、推薦課題図書選定、読書感想文・感想画コンクール、出版物利用促進、部会だよりの各部において実践してまいりました。

読書感想文コンクールでは、応募校数については、昨年度より24校減少し、応募作品数も228編減少しました。その背景を考えると、全県的な児童生徒数の減少もあり、数値のみでの単純な比較はできませんが、想像力や読解力、調べて活用する力を育む読書の有効性を積極的に伝えていくことが、これまで以上に必要だと思われまます。しかしながら、そのような状況の中でも、応募された作品の中には、自分の体験を重ねながら、自分の言葉と表現でのびのびと書かれた作品も数多くあり、数値では測ることのできない児童生徒の育ちも感じられました。各支部および各校での読書感想文にかかわる取り組み、各校でご指導いただいた先生方、審査をしてくださった皆様方にも感謝申し上げます。

また、10月には、第73回長野県図書館大会（松本大会）が、メイン会場とサテライト会場とを繋いで開催され、学校司書、司書教諭を始め、様々な立場で図書館とかわる多くの皆様方のご参加により、多大なる成果を上げることができました。参加してくださった皆様方、感染症対策にも配慮していただきながら、時間をかけて丁寧に計画・準備・運営をしてくださった松本支部の皆様方や関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、本年度の長野県図書館協会小中学校部会の活動にご協力いただきました皆様にお礼を申し上げるとともに、令和6年度の第74回長野県図書館大会（須高大会）、そして令和7年度の北信越地区学校図書館研究大会（長野県佐久大会）へのご協力をお願いいたしまして、今年度の活動の振り返りとさせていただきます。ありがとうございました。

支部だより

安曇野支部

安曇野支部代表 安曇野市立穂高北小学校 唐澤 信好

安曇野支部は、小学校10校、中学校7校、計17校からなります。今年度も各図書館関係諸団体と連携しながら、下記の内容で活動を進めてきました。

1 支部の事業

(1) 読書感想文支部審査 令和5年9月12日(火)

各校1名の教諭が参加して審査を行った。

小学校 9校から 126点(校内応募総数250点)

中学校 7校から 94点(校内応募総数192点)

県審査へ 小学校31点 中学校15点

(2) 安曇野市図書館教育委員会の活動(学校司書・司書教諭合同)

・研究・調査テーマ

「学習・情報センターとしての機能を果たす図書館において図書館資料を使っでの学習活動の充実を図るための担任、司書教諭、図書館司書の連携のあり方について考える」

- ・10月30日(月)に、宮澤優子先生(高森北小学校・高森町子ども読書支援センター)を講師にお招きし、講演会「学校図書館の機能の向上を目指して～当事者としての捉え直しとマインドセット～」を開催した。講演後には意見交換も行われ、これからの図書館教育について学び合うことができました。

(3) 安曇野市学校図書館協議会の活動(司書教諭・学校司書参加)

- ・各学期計3回(6月1日、10月17日、3月19日予定)協議会開催し、安曇野市図書館の事業計画及び事業報告について検討するとともに、学校支援・デジタル活用・資料活用レファレンス等についての勉強会を行いました。

2 小中学校図書館司書部会の活動

(1) システム研修会①(4月10日)

(2) 新任司書研修会(4月12日)

(3) 司書部会1(5月18日)

(4) 各地区司書部会2(6月27日、28日)

(5) システム研修会②(2月13日)

(6) 司書部会3(3月5日予定)

3 各種大会参加

(1) 長野県図書館大会(メイン会場:松本市音楽ホール) 8名参加

(2) 南信地区学校図書館教育研究大会(中州小、諏訪南中) 数名参加

4 反省および来年度の課題

- (1) 読書感想文コンクールでは、市内全小中学校より応募があり、校内応募総数は昨年度並でした。市の審査会において県に上げない作品を市入選とし、市教委からの賞状を授与しました。事前にコンクールの応募票記入の確認を各校にお願いしましたが、今年度もやり直しをお願いした学校があり、徹底が難しいですが、今後も各学校へよびかけていければと思います。

- (2) 市内研究会は、司書教諭の参加もお願いしているがなかなか難しいです。Chromebook等一人一台端末の活用やネット活用が進んでいる現在、図書館教育の在り方も変革期を迎え、日々の教科学習に深く関わる司書教諭の参加者を増やし研究を進める必要を感じています。

- (3) 本年度、長野県図書館大会において、長野県図書館大会が松本で行われたため、市内小中学校及び市立図書館の関係者の方々に多数参加して頂きました。

須高支部

須高支部代表 須坂市立旭ヶ丘小学校 宮入勝彦

須高支部は、須坂市・小布施町・高山村の、小学校・支援学校13校と中学校6校の計19校で組織されています。各図書館関係諸団体と連携しながら活動を進めてきました。

1 活動内容

(1) 小中学校図書館部会須高支部

○年度当初 書面連絡 令和5年4月25日(火)

内容…委員会組織確認、支部年間計画立案

○まとめの会 令和6年2月8日(木) 上高井教育会館

内容…令和5年度事業報告及び反省、情報交換

(2) 図書館協会須高支部総会 令和5年6月6日(火) 市立須坂図書館

内容…令和4年度事業報告・決算承認、令和5年度事業計画・予算承認

(3) 読書感想文コンクール支部審査 令和5年9月11日(月) 上高井教育会館

※須高読書感想文コンクール審査会も兼ねて行いました。

	合計	小学校	中学校
応募作品総数(小中19校)	407	69	338
支部審査会 応募数	96	53	43
須高コンクールの入賞者	50	32	18
県審査への応募数	43	28	15
県審査の入賞数	16	9	7

(4) 研修会 ※計画では夏期休業中に実施予定でしたが、今年度は見送りました。

(5) 図書館大会への参加

○長野県図書館大会松本大会 10月28日(土) 松本会場2名・長野会場3名参加

○北信地区図書館教育研究会 9月7日(木) (飯水支部主催)

2 活動を振り返って

- ・小中学校図書館部会須高支部の第1回の会議は、年度当初の煩雑さを考慮して、紙面連絡にしました。
- ・夏期休業中の研修会は実施できませんでした。同好会の研修等もあり、設定が難しいところもありますが、期日等も含めて実施を検討していきたいと思います。
- ・読書感想文コンクール支部審査会では、県への応募作品の選出とともに、須高支部独自のコンクールの選定(賞決め)も行っています。今後も厳正かつスムーズな審査が行われるよう、方法について考えていきたいです。
- ・令和6年度「第74回長野県図書館大会」は須高支部が開催都市となります。奮ってご参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

ステップアップ研修 参加報告

「ステップアップ研修 学校・学校図書館における著作権」

松本市立二子小学校 司書 窪田智美

夏休み中8月4日午前中、Zoom で参加しました。著作権については、重要であるのに漠然としたものしかつかめていないことにいつも不安を抱えていました。日々の仕事でも「いいのかな?」「だめかな!」と自問自答。改めて図書館運営にも著作権は大切な知識であることからこの研修に参加させていただこうと思いました。

- 図書委員会で児童が書いたしおり。アニメのキャラクターの絵を上手に書いてくれました。増刷して児童に上げてもいいのかしら…。

回答>どちらとも言えない。よい場合もあれば悪い場合もある。

- 図書館だよりや Web サイト、Google クラウドに新しく購入した本、図書委員、先生方のおすすめ本の表紙を載せたいと思います。これって著作権に違反する?しない?

回答>見解は様々なので出版社に問い合わせることが望ましいとのこと。

無許諾でいいという場合もある。許諾不要のものは、授業に関するもの、国語や委員会活動(児童・生徒会)も授業の一環になる。

- 図書だよりは誰が誰に出すのか確認すること。
- Web サイトは公開範囲、期間が大切。誰が見られる状態か
- Google クラウドはクラウド 公衆送信、サーバへの支払

講師は東京学芸大学こども未来研究所、学校著作権ナビゲーターの原口 直氏、現役の公立中学校、音楽の教員だそうです。現場目線で実体験による内容でしたのでとても興味深く聞くことができました。また講師のホームページを拝見し、講座の内容を改めて見直すこともできました。

<https://maruc.work/category/youtube> 「原口直の学校著作権ナビ」

直接、教員や司書からメールで質問を受付けてくださっていてそれが YouTube に公開されています。これもとても参考になりました。

その他にも、学校は許諾不要ではあるが無料イラスト素材でも利用規約はそれぞれ違うから使う場合は利用規約を必ず読み、学校だから大丈夫と思わない。著作権法 35 条の条文も確認したいと思いました。

現代の情報化社会において、著作権を習っていないから知らないでは済ませられないようです。先生も保護者にも著作権の知識は必要です。

著作権の基礎と学校現場での適用について有意義な研修を受講させていただきました。

読書感想文コンクール及び読書感想画コンクールの審査結果から

担当幹事 長野市立豊栄小学校 関川 あかね

令和5年度、第46回長野県読書感想文コンクールについて報告します。各学校から応募された作品について各支部審査・県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：360校	◇応募作品数：3032編	※小・中合計数で表示
◇県入選（県応募）作品数：531編	◇県入賞作品数：237編	
◇中央審査会応募作品数：8編	◇中央入賞作品数：なし	

応募校数については、昨年度より24校減少し、応募作品数も、228編減少しました。昨年度は増加が見えましたが、ここ数年は減少傾向にあります。要因としては、児童数の減少や教育課程の改訂に伴う教育活動の多様化、それに伴い読書や感想文指導に十分な時間を掛けられないこと等が現場の声として聞こえてきます。学習にICTの導入が推奨されている昨今、読解する力や調べ活用する力を育む読書の有効性を積極的に伝えていくことが大切と思われます。そんな中でも各支部や各校の皆様には、素晴らしい作品を多く応募していただき感謝いたします。

支部・県審査委員の先生方には、多くの感想文を精読し厳正に審査していただきました。また、小・中学校図書館部会OBの先生方には審査のお手伝いをいただきました。あわせて御礼申し上げます。

県審査にあられた先生方からは、「話の内容に自分の身近な人（家族）や体験と重ね合わせ書いているものが多かった。お話から新しい心の気づきを書く子もおり本を読むことで心が豊かになっているようなことが感じられた。」「作品の内容を自分に引き寄せながら書こうとしている作文が多かった。自分なりの理解から感じたことを言葉にしていく経験はとても大切だと感じた。」「本の内容から自分自身や経験を見つめ直せており中学生らしい言葉・表現で書いているものが多かった。自分の弱さに目を向けて書いている生徒が多く自己変革を読み取れる作品が多かったと思う。」等の貴重な感想を寄せていただきました。また、教師として自分自身の今後の指導に生かしていきたい等、よき学びの機会と前向きにとらえておられる感想も多くありました。

一方で、作文の基本的な表記の誤りや誤字、字数過不足な作品が、どの部門にも見られました。作品に自分の体験を重ねたりしながら、伸び伸びと書かれた作品が数多くある中でまとめの工夫が不十分で惜しいと感じさせる作品も多くありました。また、読書感想文の書き方サイトを、構成や表現等のかなりを参考にしたのではと思われる作品がありました。応募規定の確認や推敲等の見届け等と共に情報リテラシーの観点からも各学校や支部審査の段階での指導をお願いしていきたいと思えます。あわせて、AIの使用についても今後は話題にしていくことが必要かと考えられます。

令和5年度の読書感想画コンクールについては、各学校から応募された作品について県審査を行い、次のような結果になりました。

◇応募校数：24校	◇応募作品数(県応募)：327点	※小・中合計数で表示
◇中央コンクール応募作品数：10点	◇中央入賞作品数：なし。	

本年度の応募校は昨年度より4校減り24校となりましたが、応募作品数自体は23点増えました。しかし、部門別でみると小学高学年が、全応募数わずか15点と大幅な減少となりました。中学校が部活動で取り組むのに対し、小学高学年では、前段の読書感想文で述べたような応募数減少の要因に大きく影響をされていると考えられます。今後も年度当初より年間指導計画に位置付けて、計画的に取り組んでいただけるよう支部および各校への呼びかけに努めていきたいと思えます。

応募作品の審査にあたっては、読書により、どのように心揺さぶられ自分の発見や感動をどのように表そうとしているのかを念頭に作品を選定するよう心掛けました。素晴らしい作品を寄せていただいた各学級の担任や部活顧問の先生方のご指導に感謝申し上げます。

最後になりましたが、両コンクールにご尽力いただいた全ての皆様にご挨拶申し上げます。今後も、子どもたちへの読書の啓発や意欲的な作品の応募を賜りますようお願い申し上げます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第166号
発行日 令和6年2月28日
発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内
長野県図書館協会小中学校図書館部会 (代表 林 明美)